

原爆投下後の市街地のパノラマ模型に見入るアフガンニスタン女子代表の選手たち (広島市中区の前爆資料館)



アフガン代表 広島入り

女子サッカー 原爆資料館見学

アフガニスタンのサッカー女子代表チームが、国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所の招きで来日し、16日、被爆地広島で研修を始めた。戦争で荒廃した母国の復興に役立てるためヒロシマの歴史や、リーダーシップについて学び、社会で活躍できる女性のモデル像を模索する。

選手15人と監督やコーチら4人が参加。原爆資料館(広島市中区)で市街地のパノラマ模型や焼け焦げた三輪車などを見学、戦争の悲惨さと平和の尊さを確かめた。小倉桂子さん(78)は「中区の被爆証言も聞き、水をあげた被爆者が目の前で亡くなった「恐ろしい」記憶を一緒にたどった。

FML
エフエムエル
医学と共に
福山臨床
24時間

アフガンは1970年代後半から紛争にあえいできた。復興に向かう今、人気のあるサッカーが国民の心をつなぐ。女子代表の国際サッカー連盟(FIFA)ランキングは132位だが、男性優位の社会で差別と闘い、制約された環境でプレーすること自体、「希望の象徴」となっている。20日は、アンジュヴィオレ広島と親善試合をして21日に研修を終える。主将のフルーザン・アブドゥルマツフーズ選手(21)は「広島の復興を直接見て勇気づけられた。いいプレーで日本の皆さんに応援してもらいたい」と意気込んでいる。(山本祐司)